

# Web2.0 って・・・何???

World Wide Web の進化 ( Wikipedia 参照 )

## Web1.0

Web1.0 と言うのはめったに更新されないスタティックな HTML で作られた Web だと言う話です。静的で、ちょうど図書館の書棚の様なイメージです。

## Web1.5

Web1.5 ではコンテンツマネジメントシステムを利用して、いつも変化がある、ダイナミックな Web と定義されています。Web1.0 と比較すると極端に動的な Web だと言う事ができるでしょう。また、付け加えるのであれば、サイト内で完結したサービスが多く、多大な投資を行う事で成立している Web と言う事ができます。ドットコムバブル時代のサイトがまさにこの種類の Web サイトになるでしょう。

## Web2.0

まだまだ Web2.0 そのものの定義は曖昧な様ですが、大枠の意味合いとしては、Web1.0 の静的な Web であったり、Web1.5 のサイトの独立性が高いダイナミックな Web とは異なり、サーバやコンテンツ同士がシームレスに連動され、インターネットが社会的なネットワークとして動作するという様な意味合いです。

一言ではなかなか表現しにくいのですが、インターネット全体がコミュニケーションプラットフォームとして連動、共鳴し、進化するという事になるでしょう。もう少し具体的には、サイトやサービス、コンテンツがコンポーネント化され、コンポーネント化されたリソースがインターネットと言うインフラの上で複合的に利用されると言うイメージになります。

今まで、サイトが提供するサービスやコンテンツを左右するものとして、資本力が非常に大きなファクターとなっていました。ですが、Web2.0 の世界では、数多く存在するリソース ( サービスやコンテンツ ) を複合的に利用する事により開発/運営コストは軽減され、サイトとしてユーザにとってどのようなベネフィットを生み出す事ができるのか? というサービスが持つ本質的な部分が強く求められる世界になるのでは無いかと思います。

今までに無い世界観としての Web2.0。今まさに議論されているテーマであるからこそその曖昧さを感じるころではありますが、今後、技術観点、マーケティング観点、ユーザ観点で複合的に考察して行く中でよりその輪郭を明らかなもの出来ればと思います。

Web2.0 の発案者の一人であるティム・オライリーによって、2005 年 9 月 30 日付

けの “What Is Web2・0” というブログにまとめられています。

<http://www.oreillynet.com/pub/a/oreilly/tim/news/2005/09/30/what-is-web-20.html>

日本語

<http://japan.cnet.com/column/web20/story/0,2000055933,20090039,00.htm>

<http://japan.cnet.com/column/web20/story/0,2000054679,20090424,00.htm>

## WEB2.0 企業ランキング

<http://web20-senmon.com/ranking/business/bbs.cgi?LOGNUM=0>

## Web2.0 の注目サイト

### Google

<http://www.google.co.jp/>

単に検索サービスとして成功したに止まらない、検索以外の多くの画期的な新しいサービスを提案することで、ネットビジネスの主導権を握り続けている、たとえば、

1. **GoogleMaps** (地図サービス) <http://www.google.co.jp/maps?hl=ja&tab=wl&q=>

2. **Gmail** 電子メールサービス (検索機能とスパム対策に優れたウェブメール)  
メールボックスの容量は約 2.7G バイト。今でも容量は増え続けている

3. **GoogleSuggest** (Google サジェスト)

(ユーザーが検索ボックスに入力している途中のキーワードから想定される様々な言葉を提案 (サジェスト) するもの。より絞り込んだ検索キーワードを提案し、入力を簡単にすることで、効率の良い検索体験の提供を目的とするサービス)

4. **Earth** (世界を見渡す 3D ソフトウェア)

Google Earth は膨大な写真や画像で組み立てられた地球を、さまざまな地理情報と共に、近所のレストラン、病院、学校などはもちろん、パリやマウイなどの遠く離れた場所も訪れることができます。

5. **Google Blog Search** (ブログ検索サービス)

米 Google は 14 日、ブログ検索サービス「Google Blog Search」のベータ版を公開した。英語など 10 カ国語の検索に対応し、日本語による検索も行なえるが、現時点では日本語での検索には正式には対応していないとしている。

Google Blog Search はブログに特化した Google の検索技術で、英語のほか日本語を含む各国語での検索に対応する。検索方法は従来の Google の検索と同様だが、ブログ検索用として新たに、「inblogtitle:」(ブログのタイトル)、「inposttitle:」(記事のタイトル)、「inpostauthor:」(記事の投稿者名)、「blogurl:」(ブログの URL) といった検索オプションが追加されている。

Google Blog Search <http://blogsearch.google.com/>

blogs Search <http://search.blogger.com/?ui=blg&q=>

## Amazon

<http://www.amazon.co.jp/>

インターネットの通販サイトは、単に商品売るだけではない。ユーザーの嗜好を分析してその人に合ったお勧めの商品を常に提案する。

Amazon は、全世界に無数の支店を持ち、Amazon 以外が売る商品の販売も仲介する。

## はてな

<http://www.hatena.ne.jp/>

日本にも、Web2.0 世代のサービスが存在する。最も成功しているのは、「人力検索」でスタートした「はてな」と言えるだろう。利用者が質問し、別の利用者が答えるという仕組み。

## ウィキペディア

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>

一般の利用者集まり、知恵を結集することで、百科事典は成立する。無報酬のボランティアが結集し巨大百科事典を作り上げた。

## OKWave (オウケイウェイヴ)

<http://okwave.jp/>

日本初、最大級の Q&A サイト。質問にみんなが回答をしてくれるため、疑問や悩みをすばやく解決することができます。

## mixi (ミクシィ)

<http://mixi.jp/regist.pl>

mixi (ミクシィ)は、招待なしでの新規登録は行えない仕組みになっております。既にミクシィに参加している知り合いから招待メールを送ってもらうまで待つしか新規登録は行えない仕組みになっています

## この指とまれ!

<http://www.yubitoma.or.jp>

「ゆびとま」の愛称で知られる「この指とまれ!」は、日本全国の大学、短期大学、専門学校、高等専門学校、高校、中学校、小学校など国内・外ほとんどすべての学校および統廃合により現存しない学校までも網羅し、卒業校登録して同窓生、同級生、恩師等との懐かしい再会や連絡し合ったりすることができる会員制コミュニティサイトです。

## 小僧 com

<http://www.kozo-japan.com/>

小僧 com は、人生というゲームの後半戦を楽しく、賢く、豊かに過ごしたいと考えているアクティブな "シニア = 小僧" たちと、そんな "小僧" に憧れる 30 代、40 代のエグゼクティブやプロフェッショナルたちに、さまざまなコミュニティサービスをご提供します。

## Web2.0 が直面する 10 の課題

秋元@サイボウズラボ・プログラマー・ブログで

[http://labs.cybozu.co.jp/blog/akky/archives/2005/11/web20\\_10.html](http://labs.cybozu.co.jp/blog/akky/archives/2005/11/web20_10.html)

The World's Leading Resource on SOA / Web Services

[http://web2.wsj2.com/10\\_issues\\_facing\\_web\\_20\\_going\\_into\\_2006.htm](http://web2.wsj2.com/10_issues_facing_web_20_going_into_2006.htm)

直面する 10 の課題を指摘している。

### 1. 行き過ぎた熱狂

Web2.0 を何でも解決する魔法のように喧伝する人々の存在が事態を悪化させうる

### 2. わかりやすい定義の欠落

これが Web2.0 だ、という簡潔な定義が無い

### 3. 古いポスターの子供達(? 意味不明)

今 Web2.0 としてもてはやされているサービスに、日常生活に必須の物や、多数の一般ユーザが使っているものは無い

### 4. 要常時接続

常時接続のインフラ普及に依存している

### 5. Web2.0 御用達技術としての Ajax

Ajax には限界があり、本質的な UI 改善はブラウザの進化で為すべき

### 6. 技術偏重主義

Web2.0 がどう動くかの仕組みに囚われすぎてはいけない

7. "Web2.0"という看板への、たちの悪い執着

Web2.0 であると語るのではなく、単に作れ

8. 作らずにブログする

Web2.0 が何か議論している暇があれば、何か作れ。Web2.0 支持なら Web2.0 サービスを、不支持なら Web2.0 よりすごいものを

9. 厳しい現実からの逃避

ビジネス性やオープン性に関する正しい判断が必要。成功とオープン性の同時追求は難しいのかもしれない

10. 軽量開発モデルへの適応

頻繁なリリースを行うための開発/リリース手法の追求

原文は非常に長い上に、それぞれのポイントを補強する各サービスや別ブログへのリンクが多い。